

大阪大会<決勝> 審査講評 ラジオドキュメント部門

審査順	学校	作品名	結果	講評
1	四天	身体で見る世界	入選	視覚障害の人のことをテーマに、よくまとまっています。街の音から入って、取材を重ねていく構成うまい。設備より人と人のかかわりという展開、好感を持てる。 アナウンスの声の大きさと他の音量のバランスはほぼとれている。インタビューの最初の音声がか切れているところもあり、注意。音響信号の音が聞きづらい。もっとなら立たせても作品上いいのではないかな。作品の流れはスムーズで違和感なく聞けた。 ラジオと「視覚障がい者」という題材の親和性が高い。「人と人との世界」というナレーションの印象が強すぎて、急展開に感じた。 ナレーション、声はよく出ているのだが、もう少し情感のあるやわらかさがほしい。テーマは身近ないいものをつかんだ。取材対象もいい。ラジオにぴったりのテーマ。音の効果あり。ただ、高校生独自の視点はやや不足していた。 場面が変わる時の音が急に切れたように感じる部分がある。よく取材されている。 ナレーションもっと自然に(かえってききにくい)。なぜ途中からBGMがはじめて入ったのか？ちょっとナレーションに頼りすぎ。音響信号の音に2種類あるとか、もっと「事実」をたくさん示したい。「身体で見る」という題目、少しちがう。
2	箕面自	高校生の反抗期	入選	反抗期という高校生らしい、目のつけどころがよかった。クリニックの先生の話はもっと先に出して、反抗期を説明して欲しかった。 インタビューが男女に分かれていたのはなぜ？親の意見の部分の複数のインタビューがあったらよいのでは。内容的にはよくまとまっている。ナレーションはやわらかい口調でよい。 高校生らしい視点で、テーマも高校生ならではのもので、安心して聞けた。親側の意見がもう少し欲しい(アナウンスでまとめるのではなく)。専門家の意見も組み込んでいて、作品に幅がでていると思う。 ナレーション、アクセント、中学生との比較はあまり意味がないのでは。このお母さんはどんな人？一人だけだし、一般化するのは無理を感じる。まじめすぎて、おもしろくない。結論も教訓的すぎ。 中学生のインタビューもたくさん取れてよかった。保護者の声、もう少し多くの人に取材できたらもっとよかった。反抗期について、まじめにとらえたすばらしい作品です。 親へのインタビューはいい視点。かつて激しい反抗期を送った世代が親となってどうしているか、をもっと突っ込んでほしい。ただ親に反発をするだけが反抗期か？クリニックの医者にインタビューするのは意味なし。社会への反抗という視点がほしかった。
3	金剛	K O I N G H O T !	3位	学校の不思議という自分の身近な題材をとりあげていて好感がもてました。ナレーションの間やインタビューがつまみついて、ききとりづらい部分もあったが、それが逆にテンポを生んでいた。 謎の曲について、調べていく展開はおもしろかった。調べるだけでなく、知名度をあげるために放送部がいろんな人に働きかけていく行動力はすばらしい。 出だしの音量が切れていて、残念。アナウンスとインタビューとのつなぎ方をもっとスムーズにするとよい。身近なものなのに、忘れ去られているものを題材にして、「高校生らしく」てよい。 ナレーション、アクセント、構成がだらだらしている。区切れはどこ？だれへのインタビューか(何部の顧問とか)わかりにくい。応援歌はさいしょに流してほしかった。 忘れられた応援歌という身近なテーマを追求するのはいいが、かなり先生方に依存して、ヤラセのイメージもある。なぜ制作者にインタビューしなかったのか？先生の誘導を感じさせてしまう。 「？」からの入り方がおもしろい。校内放送の番組としてはおもしろいが、一般的に7分の番組としては内容が薄い。
4	成美	かけぬけるなでしこ！	4位	女子のサッカー部員の声を、たくさん取材できていてよくまとまっている。バックに練習している音も入っているのが、臨場感があつた。ラストのBGMはもうひと工夫ほしい。 男女合同サッカー部を取り上げたのはおもしろい！「女子を見習え」という監督の視点をよく聞き出した。女子顧問の体当たり指導、バックノイズがリアルでいい。ナレーションもよい。 男子の中での女子部員の頑張りや伝わってきた。インタビューなど内容が羅列になっているように思えた。 高校生らしい題材。取材はよくできているが制作側の意図がもう少しあるとよいのでは。 「なでしこJAPAN」の話題性をさまざま作品に取り入れる行動力は評価できる。インタビューのつなぎ方や切り方をもう少し工夫すると聞きやすくなる。 沢山のインタビューがあり、よい。 男女と一緒に練習することが話の筋なのかな？(タイトルが大まか)ははっきりしない。インタビューはたくさん取れているがその並べ方がすっきりしない。話の構成を整理しよう。テレビ向きだったね。最後のナレーション音割れ。
5	箕面自	歌えますか？自治会歌	2位	学園の歴史を調べていく過程が生き生きと描かれている。すばらしい作品です。放送部の活動と結びついているのが、またいい。 なぜ作詞不明、楽譜もないのか、追求したのはおもしろい。ミステリー仕立てが効果的。89歳の浅野先生のインタビュー、よくやった。校内放送でON・AIRするのもいい。ラジオドキュメントの王道、すばらしい成果、ラストさわやか！ 校内放送としてはおもしろい。番組の構成がよくできている。最後まで興味を持てた。 生徒手帳という身近なものから「自治会歌」をとりあげ、探っていく展開が面白い。インタビューも沢山あり、聞いていて飽きない。歌えるようになって終わりではなく、その先もずっと調べている姿勢はすばらしい。 「そうです！ ～ 学園の生き字引」という校長先生の紹介で一気に入ら内容に引きこまれた。 ふくざと先生が「作曲」？編曲では？音源があるのなら、前半の知らない・歌えないの部分が長い。「ギン棟」どんな字？曲を復元するのと、作詞者を探すのは別の話ではないか？もっとすっきりしたい。
6	四天	求ム、集中力	1位	実際の高校生活と音について、いろんな角度から分析していておもしろい作品でした。集中力についての結論も、すばらしい。 ナレーションが軽快で、作品をテンポ良くまとめていて聞きやすい。実験もあつて、よく考えられた番組だと思う。BGMもその場その場であつている。どういう展開になるのか、と最後まで楽しめた作品だった。 実験などをとり入れて、分かりやすく内容を説明していた。 ナレーション、きれいで軽快、内容にぴったり。実験おもしろい。インタビュー対象、おもしろい人を見つけたね。リサーチ、アンケートよくやった。高校生らしい視点とおもしろさあり。 題材が高校生にとって身近でおもしろい。ナレーションもよくできている。 先生の意見なんて必要ないんじゃないかな。インタビュー音が良くない。BGM使いすぎ。大人って誰？先生？集中できる音＝落ち着く音って考えたら当たり前だね。「それでも集中できない時」という設定の必然性がない。

大阪大会<決勝> 審査講評 ラジオドラマ部門

審査順	学校	作品名	結果	講評
1	相愛	id Gender	入選	性同一障害について、3人の人間関係を素材に描いていた。リズムがあっていい作品だった。ただ、カミングアウトに至る葛藤がもう少し表現できたらもっとよかった。 「性同一障害」という重いテーマにきちんと向き合っており、ドラマとして仕上げている。旅立つ前と旅立った後の時間差(時間軸)をつけると違和感がなくなる。後半の展開が早い気がする。聞いていて考えさせられる作品。 社会性のあるテーマを扱っているにもかかわらず、軽快なテンポで内容を重く見せず、わかりやすく昇華していた。 現代的テーマに真正面から取り組んだ意欲作。高校生の気持ちもよく出ているが、予定調和にムリにもっていったかな。ラストはそこまで行かなくてもよかったかも。 脚本・構成もよくできている。話題性を持っていておもしろい。チハヤが少し淡々としすぎている。 時間の経過を表し切れていない。あと1~2秒でも間を。話の展開があまりにも早い(次の日だし)。一つ一つの決断も早い(そのためセリフに頼っている)。「まさか隼人？」というセリフは、ユリには言わずに隼人に教えていることをパラしてしまっているのでは？
2	開明	ストレスカウンター	2位	ストレスカウンターのアイデアは、すばらしい。構成もよく考えられていて、ひきこまれる作品だ。登場人物のキャラクター分けを声で表現できたらもっとよかった。 まるで「ウルトラQ・カネゴン」のカウンターみたい。出演者演技いい。ルリもカウンターを持っていたオチは効いている。ラストもいい。 「ストレスカウンター」という設定に斬新さを感じた。起・承・転・結がはっきりしていて、展開にのめりこんだ。 「私は ~ 」のところ、BGMなどで場面転換を示さないと、聞いている方がワテンポ遅れる。女の子の声の区別がつかないので、話を見失ってしまう(さらに心の声まで…)。ストレスカウンターという設定はおもしろいが、そこから展開できなかったのが残念。 ストレスカウンターを通して校内生活のありふれた生活・友人関係をつきつめている点はおもしろい。
3	金剛	三丁目のヒーロー	入選	「戦隊もの」をやりたいという情熱を感じた。そして、リスナーが油断しているところで、ホロリとくるストーリーが展開されていたので、一気に感情移入することができた。 変身できなくてもヒーローになれることがわかってすばらしい結論だった。構成はよくできていた。 佐藤ゆう太のヒーロー自体、深夜ヒーローのパクリだが、人を喰っていておもしろい。伏線も巧み。でもオリジナリティに不足あり。 滑舌とかイントネーションとかをしっかりとしてほしい。少々聞きづらい・地域限定ヒーローはおもしろいけどラジオナレーションが入ることで違和感がある(ラストだけならいいのだが)。格好も見かけも能力も関係ないというなら、変身そのものが要らないのでは？ 軽快な掛け合いが面白い。エネルギー問題やエコなど地球環境がテーマであると分かって、ギャップが面白い。火事の場面の「野菜」のくだりは、どうつながるか、音だけでは分かりにくい。 番組としてよくできているが、オリジナリティに欠けている。素直に楽しめる。
4	箕面自	ボカロ	3位	「ボカロイド」のヒントは初音ミクか。カラオケでも正しい音程だけじゃないものね。「心」が伝わってこそその歌だ。おもしろい設定、オチもおもしろい。声にこだわる放送部ならではのテーマでした。ボカロ声という設定を乗り越えて、生き方を考えることにつながるいい作品でした。 「声に価値」という発想が面白い。「ボカロ」の意味も面白い。高校生らしく、友情というものもひとつのテーマになっていて、友情により自分を取り戻したという展開がさわやかで良い。オチは普通、終わり方の工夫が欲しかった。 放送部らしい場面設定でおもしろい。展開もスピーディでよい。最後の終わり方もおもしろい。 「声」というテーマがラジオドラマにぴったりだった。登場人物の「声」に対して耳がいくので、人物の差異もわかりやすかった。主人公が林くんのか北川さんなのか、どちらなのか分かりづらく感じた。 主人公は十分に良い声なのでドラマ的にスタートから入れない。BGMによる切りかえが微妙に違う。ボカロ声なるものをつけるだけで評価が上がらるなら、そんなもので成績や入試が決まるのはおかしいのでは？ボカロの声って美声じゃないと思う。男の子の方はエフェクトがかかっているように聞こえない。オチ、わからなかった。
5	榎の木	食堂革命	1位	食堂へのデモとレーニンのギャップと皮肉が効いている。資本主義の競争原理実践の革命はむっちゃおもしろい。テンポよく軽快でおもしろい。出演者、ノッていてチームワークいい。 高校生らしい視点でテーマも分かりやすい。「学食同源」の説明がやや唐突な気がするが、学校の食堂のおいしさ=学力向上というつながり方が高校生らしい発想で興味深い。BGMの使い方もテンポがよく、よかった。 学生が革命を起こしていく姿が痛快だった。設定が非常に身近で、編集のテンポが良かった。 高校生の切実な問題をテーマにしたおもしろい作品でした。食堂のあり方を変えるのに成功してよかった。 高校生らしい楽しい番組。展開もスピーディ。身近な場面設定で昼の校内放送としてピッタリ。 場面が変わった(食堂と教室とか)のを表現しきれていない。セリフが聞きやすい。発想はおもしろかった。怒られたこと、食堂が改善したことが、時間差なければよりおもしろかったのに。
6	四天	僕の旅	入選	特別な舞台装置のない設定で「心の旅」を表現した奥深い作品です。BGMの選択うまい。演技もよかった。 ひとつひとつのせりふがよく考えられている。「自分探し」というよくあるテーマだが、改めて作品として聞くと、とても心がほっこりする進み方だった。役者がうまい。ドラマらしい作品。 オーソドックスなドラマ。校内放送やホームルームでぜひ聞かせてあげて。でも、親子・友人はそうかもだけど、恋人になると深刻な話になるかも。自分の存在を見つけていく姿をていねいに描いていた。ひとつの旅を通して、人間の魅力を感じることができた。 脚本にオリジナリティがない。8分の番組にしては少し説明的な部分が多い。BGM等は効果的に使っている。 タイトルの「僕の旅」でBGMがほしかった。お姉さんとの会話に入ってからBGMがなくなったのはなぜ？(しかも長い)。演技はうまい。会話というより対談集で、テレビドラマなら映像次第では楽しめたかもしれない。主人公が小学生ならば、コンテストのテーマから離れてしまう。

大阪大会<決勝> 審査講評 テレビドキュメント部門

審査順	学校	作品名	結果	講評
1	箕面自	飲めないの？ 飲まない	4位	チア部の寮の水道水から疑問をもって、どんどん取材していくという展開がすばらしい。音量のバランスを気をつけると更によくなる。ドキュメントらしい作品だった。 水という身近なテーマをあつかっていて、よかった。「飲まない、飲めない」に関して結論が欲しかった。 身近な水といういいテーマを捉え、水道局への取材もよかった。インタビューシーンが単調なので、インサート映像欲しかった。 身近な水道水について、校内・校外にいろいろ取材していて、よくまとまっていた。ただときどき画像があって声のないところがあった。もう少し整理してもいいかと思う。 始めの部分のナレーションをたんたんとはなしていた所をテンポよく進めると、よくなる。どこの水(水道水)のことなのかははじめのうち分かりにくかったです。 うまくまとめられている。身近な問題をとり上げていて、番組に入っていきやすかった。編集をていねいにしてほしい。とくに音声レベル。
2	府箕面	彼らは絆をこう語る	1位	長期に渡る取材で、放送部の熱意を感じた、良い作品。タイトル通りの作品で、見終わった後納得できた作品。テンポもよく、よくまとまっていたと思う。 インタビューのインサート映像いい。劇的な展開となっている。みんなの表情いきいきしている。 ノートのディテールをもっとくわしく見たかった。学生の表情が豊かにえがけていた。 世界大会に出たダンス部を取材したすばらしい作品でした。インタビューもたくさんとれていて、よかった。ビデオカメラはできるだけ三脚を使いましょう。 テロップの入れ方がていねい。ひとつの部を追っていく作り方は、ドキュメント番組のスタンダードな作り方で、安心して見る事ができた。 ダンス部のこと、顧問の先生のごことがよく分かりました。ケガをした部員の話のときの映像は話とあってますか？
3	布施	フック・フック・フック	2位	タイトルおもしろい。OB・古い資料への調査、ミステリー仕立てで興味を引く。グラフ化もよくわかる。 高校生活に欠かせない教室の中から疑問(題材)を見つけて、疑問や仮説など、自由な視点でバラエティに富んだ展開で飽きない。インタビューも沢山あり、取材力も感じられる。 VTR途中に入る看板(仮説など)がテンポを悪くしている印象があった。フック一つで内容をここまで展開できるのが素晴らしい。 フックにこだわって、十分な取材しておもしろく作ってひきこまれました。テンポもよかったです。 教室にあるナゾのフックについて調査していく過程が、おもしろかったです。仮説どおりの結論とならなかったあたり、誠実に作品を仕上げたことがうかがえます。 CGはうまくできている。「フック」から学校の歴史を掘り起こしていく展開ですが、広がりがないのが残念です。
4	金剛	部活のすゝめ	3位	インタビューの量が豊富で部活動の実態がわかった。数字などの情報の見せ方が効果的だった。 グラフ化よくわかる。先生へのインタビューは安易。保護者・OBインタビューはいい。 インタビューされる人は全て画面を向いていたほうがよいのでは？部活動の費用の減額から、勉強との関連性とのつなげ方が面白い。親の意見も聞いており、よく取材できている。 部活動に参加する生徒が減少するという深刻なテーマをよく分析している。ただ、部活をしない生徒の個別の事情にも取材できたらよかった。 生徒がびっくりする内容になったのがよかったです。 少し単調な感じです。緩急をつけて番組を作る方がいい。内容はいいと思います。インタビューの時に雑音が気になります。

大阪大会<決勝> 審査講評 テレビドラマ部門

審査順	学校	作品名	結果	講評
1	箕面自	カナちゃんとは	3位	おもしろい設定で、よくできた作品です。画像はきれい。出演者の演技もよかった。 ぬいぐるみを通して、さらに擬人化という手法で恋愛感情を見事に表現していた。ぬいぐるみ一つで様々な表情をみせていた。 「ティペア」の人間化おもしろい。花のインサートもいい。ほのぼのラブ・ファンタジー。クマ役、いい味出してるぞ！ しっかりとできていて、最後がどうなるか楽しみでした。うまくできていた。 主人公が好きな人を見つめているシーンで、長く感じるところがあり、注意。ところどころ無音があったところは？ボールが転がるシーンなど、よく考えられている。せつない失恋のシーンがよかった。 木ぼりのクマの「ナイスファイト」が全体をよく表わっていて、作品のストーリーも合っていました。
2	金剛	想いをのせて	入選	ストーリーがしっかりとしている。葛藤がしっかりと表現できていておもしろかった。主人公の心理がよく表現できていた。絵がきれいだった。 いろんなシーンの背景の画像がきれいで、効果的です。うまく構成されていました。ただ、屋上の端に腰かけるのは、あぶないです。 ベタベタなところがおもしろい。ここまでワンパターンに徹し切れるのがいい。 「放送部」という設定がリアルさを生んでいた。情景とてもすばらしかった。 学校内恋愛というテーマで、何だか懐かしい感じの作品で、作品に惹き込まれた。せりふひとつひとつをもう少し丁寧に言うと、分かりやすい。男の子2人のかけ合いが初々しくてよかった。ストーリーにひとひねり欲しいところ。 恋愛の話を成功・失敗でまとめるのではなく、チャレンジしていく所がおもしろかったです。
3	箕面自	ノイズ	1位	さわやかなドラマ。女の子のめげないキャラがいい。ただ「ノイズ」を映像では表現できないが、もう少し絵にこだわりがあればもっとよかった。 BGMの入れ方がうまい。色と音をテーマに映像作品としてうまくできていた。2人のやりとりがうまくできていた。カメラアングルがうまい。 カットの割り方が非常にていねいだった。さわやかな青春ドラマだった。 設定おもしろい。色と音(ノイズ??)のコンビネーションが、よく表現できています。カメラワーク、工夫されているのがよくわかる。 主人公と女の子の2人の掛け合いで話が進められていて、2人とも成長が見られる作品。ひとつひとつのせりふをもう少し丁寧に。カット割、上手。 教師と生徒のやりとりは現実的ではないが、ストーリーのテンポはうまい。作品の題材もおもしろかったです。
4	附平野	パンダッシュ	2位	「パンダッシュ」のアイデアは奇抜、「イカ娘」のピンポンダッシュがネタか？オチもおもしろい。 「まぼろしパン」を中心に、生徒の心理を表現しているのがよかった。時間の経過が表現できていてよかった。 マボロシ・パンという設定に無理があるけど、出演者たちの熱演すばらしい。落ちも予選のときより進化したね。 パン一つで、ドラマティックに展開していた。桜の描写など非常に細やかだった。 BGMの音の大きさとせりふとのバランス、注意。高校での不登校の理由が弱い。ストーリー展開がやや強引だが、登場人物一人ひとりのキャラが面白く、ドラマらしくてよい。撮影の仕方に工夫を。 ストーリー性やテンポはいい。構成をもう少していねいに作るとよい。